

自然観察と子どもに伝えたい季節の行事・春

松尾千鶴子（八千代市）

日 時：2012 年 5 月 8 日（火）午前 10 時～午後 3 時

講 師：午前 松川 裕（会員） 午後 小川洋子（会員）、河添寿子（会員）

場 所：午前 四街道市立みそら小学校観察フィールドと南波佐間の森
午後 四街道市立みそら小学校

参加者：大原、小川、小沢、片岡、川北、河添、栗山、小西、佐藤（一）、荘子、末永、
高井、平井、晝間、松尾、松川、真鍋、宮川、八木（千）、山田（益） 20 名
非会員 4 名 合計 24 名

今回は、今年度のテーマ「自然観察と子どもたちに伝えたい季節の行事」の春の部として行われた。四街道市の旭公民館に集合。午前中は四街道市立みそら小学校の自然観察コースを松川 裕氏の案内で観察した。みそら中央公園にはフウの木の実が沢山落ちていて、モミジバフウとの違いを教えていただいた。道端のナガミヒナゲシの旺盛な繁殖力を弱めるには気がついた人が抜くこと、オオキンケイギクは特定外来種なので抜いて燃やしてその繁殖を止めなければならないことを勉強した。私達の周りにはいつのまにか日本古来の植物に代わって外来種の植物が多くなっていることに気付かされた。



南波佐間の森ではキンラン、ギンランがいっぱい咲いてわれわれを歓迎してくれた。この森は地元のボランティアグループが数年前から約2万本の竹を伐採し整備した結果、太陽の光が差し込むようになって長年眠っていた植物が一斉に眠りから覚めたのだそうだ。キンラン、ギンラン、ジュウニヒトエ、ホタルカズラ、ミヤマナルコユリ、ヒトリシズカ、フタリシズカ、ハンショウヅル等、身近では見られなくなったたくさんの貴重な植物に出会うことができ、とてもうれしかった。それにしても四街道のみなさんは、みそら公園でもボランティアの方々が下草を刈っていらっしやっし、自然を大切に守っていかうと思っ実践している人が多いのだと思った。

午後からは、みそら小学校の視聴覚室で、河添寿子さん、小川洋子さんによる季節の行事のお話があった。最初に、河添さんより旧暦と新暦のことが話され、旧暦には自然と共に生きていた時代の知恵が詰まっていること、今が旧暦のいつなのかを知ることにより季節感が心によみがえってくるのでは、との話でした。また、二十四節気の話、五節句の中の「上巳の節句」（桃の節句、ひなまつり）の話があり、貴族の子どもの「ひいな遊び」に端を発したもので、おひな様という呼び方は町方の人々が使っていたのだそうだ。雛壇に飾られているものにも一つ一ついわれがあることも学んだ。その後、彼岸のことも話された。



小川さんは五節句の中の「端午の節句」（菖蒲の節句）のお話で、菖蒲やよもぎは邪気を祓うために使っていたもので、「菖蒲」が「尚武」また「勝負」と音が通ずることから男児の節句に使われるようになったこと、こいのぼりは庶民のもので武家は幟旗を飾ったということを知って驚いた。また、八十八夜のことも話された。お二人とも話の中に歌もおりませ、老舗の人形店の資料の写真や、国立歴史民俗博物館の展示物の写真も回覧され、最後はみんなで兜を新聞紙で折ってかぶり、記念撮影をして勉強会は終わりにになりました。